

RACE REPORT

Japanese Endurance Race
Super Taikyu

Auto Labo

ENEOS BRIDGESTONE

No.290 AutoLabo Racing スイフトスポーツ
No.291 AutoLabo Racing 素ヤリス

ENEOS スーパー耐久シリーズ2026 Empowered by BRIDGESTONE 第1戦 もてぎスーパー耐久

2026年3月20日～22日 / モビリティリゾートもてぎ

2026年シーズンがいよいよ開幕を迎えた。スイフトスポーツはオフシーズンの間に様々なアップデートが加えられただけでなく、東京オートサロンではスズキ株式会社様の公式ブースへの出展を果たすなど、メディア・世間の認知を集めている。スーパー耐久シリーズも人気を高めており、エントリーカテゴリである「S耐チャレンジ」を年間3戦開催することが確定し、新規参戦チームも大幅に増えた。AutoLaboとしてもマネージャー陣の「Sチャレ」全戦参戦が決まっている。去年よりもパワーアップした2026年が幕をあける。



ST-4クラス No.290
AutoLabo Racing スイフトスポーツ



Aドライバー
西村 和則



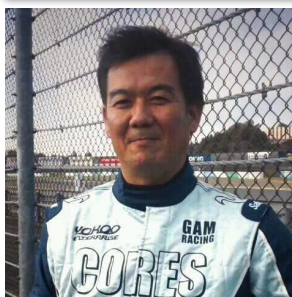
Bドライバー
伊藤 大輔



Cドライバー
茂利 大輔



ST-5Fクラス No.291
AutoLabo Racing 素ヤリス



Aドライバー
横尾 優一



Bドライバー
森川 なるお



Cドライバー
山本 シンヤ

3/20(金) 専有走行

この日は午前と午後にそれぞれ1時間の専有走行枠が1枠ずつ設定された。1日を通して雨が降ったり止んだり、気温は冷え込んだ。タイヤ選択・路面の読みが難しい状況であった。

▼No.290 スイフトスポーツ

午前の枠は中古のウェットタイヤを選択し、伊藤大輔選手から発進。計測1周のみを行った後、西村選手が走行。続いて、今年からスイフトスポーツでフル参戦する茂利選手が初のドライブを行った。茂利選手は8周ほど走行を行い、他2人と同程度のタイムまでキャチアップした。午後の走行は前後タイヤを入れ替え、車両確認とコースへの習熟を行った

▼No.291 素ヤリス

昨日の練習走行で発生したトラブル修復のため、午前の枠はキャンセル。早朝から昼まで作業が行われ、午後の走行枠で復帰した。難しいコンディションの中、スーパー耐久初参戦となる自動車研究家・山本シンヤ選手が走行。森川選手に交代したところで赤旗に見舞われ、同時に素ヤリスにもオイル漏れが発生したため走行中断となった。素ヤリスのオイル漏れはすぐに復旧し、翌日の走行に備えた。



AutoLabo Racing PARTNERS

Grand Service
Ryoso

香川トヨタ



龍谷大学



YOSHINO MOTORS



KTC

株式会社 ミライズ

RACE REPORT

Japanese Endurance Race

Super Taikyu

ENEOS BRIDGESTONE

Auto Labo

No.290 AutoLabo Racing スイフトスポーツ
No.291 AutoLabo Racing 素ヤリス

3/21(土) 午前 予選

この日は昨日と異なり、1日を通じて快晴のドライコンディションとなった。

▼No.290 スイフトスポーツ

Aドライバー 西村選手は計測2周目で2'13.007を記録し、快調な滑り出し。続いてBドライバーの伊藤選手は計測3周目で2'12.069を記録。車両が曲がりにくい傾向にあることからダンパーの調整やアスタビライザーの変更を行い、Cドライバー予選で茂利が評価走行を行い、改善が見られた。

▼No.291 素ヤリス

昨日の不調から完全復活した素ヤリス。Aドライバー 横尾選手は計測1周目で2'33.260を記録しタイヤを温存。Bドライバー 森川選手はほとんど練習ができなかったにも関わらず2'24.403を記録。Cドライバー 山本選手もS耐デビュー戦ながら2'24.436という上々の結果を記録した。



▲緊張の予選スタート

3/22(土) 午後 決勝

▼No.290 スイフトスポーツ

西村選手からスタートし、予選タイムに近い2分14秒台の順調なペースで周回。約1時間の走行の後、伊藤選手に交代。13秒台の安定したペースで周回を続け、絶好調に思われた。しかし2時間が経過する頃、フロントのハブボルトが折れてしまうトラブルが発生。同時にコース上でトラブル車両が多発したこともあり、1時間超の車両回収待ちを余儀なくされた。車両回収後は迅速な復旧作業により、茂利選手のドライブでコースに復帰。様子を見ながら周回を重ね、最終的に15秒台までペースを上げた。最後に西村選手に交代しAドライバーの最低走行時間を満たし、チェッカーを受けた。

▼No.291 素ヤリス

安定の横尾選手がスタートドライバーを担当し、1時間弱の走行をこなした。続いて森川選手に交代し、スティント後半では2'23.450のベストタイムを記録。ヤリスカップ関西シリーズ上位の実力を見せた。続いて山本選手も、横尾選手に肉薄するペースで安定した走行を見せた。最後に横尾選手がチェッカー。同クラスでトラブルが多発したこともあり、過去最高のクラス4位となった。



▲スタート前の西村選手



▲迅速に行われた修復作業



▲快走する素ヤリス



代表 國松 宏二

代表コメント

今回は本戦・Sチャレと合わせて4台体制となり、チームメンバーも増員して賑やかなレースウィークとなりました。スイフトスポーツは去年末から新作のエアロパーツをはじめ様々なアップデートを加え、クラス最軽量の車両になっています。決勝中には足回りが限界を迎えてしまいましたが、次戦までにスズキのエンジニアの皆様と協力して、さらなる改善を施す予定です。

素ヤリスには、取材でいつもお世話になっている山本シンヤさんにも乗っていただき、チーム全体としての体制も格段に大きく・強くなっています。S耐チャレンジも含めて活動のスケールがどんどん拡大しているので、今年もどんな一年になるか楽しみです。

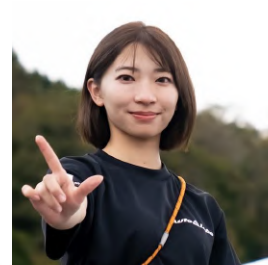
「S耐チャレンジ」に今年もマネージャー 2人が参戦！

昨シーズンに初開催されたエントリーカテゴリーである「S耐チャレンジ」が今年から本格的に始動し、年間3回の開催となった。AutoLaboも参戦に向けてオフシーズンの間にテストを行ったが、車両が全損となり参戦が危ぶまれた。「香川トヨタ」様のご支援をいただき車両調達が実現し、「ヤリスカップカー」「ロードスター」の2台体制が実現。名物マネージャー2人は去年同様ヤリスカップカーで参戦した。多忙なマネージャー業務をこなしながら、3/20の練習走行では初のモビリティリゾートもてぎに苦戦。AutoLaboにはヤリスカップ出身者が豊富(?)なこともあり、アドバイスを心得て成長を重ねた。

予選ではクラス4位の好ポジションを獲得。決勝スタート後は混戦に慣れたMayuが快走し、2分34秒というヤリスカップと遜色ないベストタイムを刻む。30分後に雨音に交代し、一時は表彰台圏内につけたものの一歩及ばず、クラス4位でのフィニッシュとなった。惜しい結果となったが2人はこの悔しさを糧に、次戦までの課題を洗い出し、日常の運転から意識的に練度を上げていくことを目標とした。



Aドライバー
箱入娘*Mayu



Bドライバー
雨音 ももは

AutoLabo Racing PARTNERS

Grand Service
Ryoso

香川トヨタ



徳島県
香川トヨタ



YOSHINO MOTORS



KTC

株式会社 **ミライス**

Auto Labo



Auto Labo

